



西新潟中央病院

NST NEWS 第42号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2017年9月5日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線5128

NSTミニレクチャー第24回 ～下剤について～

月に1度の栄養の勉強、NSTミニレクチャーのコーナーです。
今回は、「下剤について」です。



・下剤の種類

下剤は大きく作用別にみると2種類に分けることができます。1つ目が便に水分を含ませて排便させやすくするもの、2つ目が腸を刺激して腸の蠕動運動を活発にするものです。それぞれ特徴をみていきましょう。

1. 便に水分を与えるもの

便に水分を与える薬の代表的なものとして酸化マグネシウム(商品名:マグミット®等)があります。酸化マグネシウムは浸透圧性下剤とよばれる種類の下剤で、腸管内の浸透圧(濃度が低い方から高い方へ水分が移動する力のこと)を上昇させることで腸管から水分を引き寄せることで便に水分を与えます。注意点として腎機能障害を生じることがあるため定期的な検査が必要です。



2. 腸の動きをよくするもの

腸の蠕動運動を促す薬は刺激性下剤と呼ばれます。代表的なものとしてセンノシド(商品名:センノサイド®等)やピコスルファート(商品名:ピコスルファートナトリウム内用液®等)があります。これらの薬は大腸内にいる細菌によって活性化され、蠕動運動を促します。効果が現れるまでおよそ8時間程度かかるため寝る前に飲んで朝に効果を得る、という使い方をすることが多い薬です。効き目がよい薬ですが、注意点として耐性化があります。連用すると体が慣れてしまい効果が得られにくくなりますので毎日使うのはできるだけ控えた方がよい薬です。



・下剤の使い方

便秘は水分や食物繊維が多い食事を意識して摂る、運動などで腸の動きを促進させるなど、日々の食生活の中で改善することができますが難渋する場合は下剤を使用します。コロコロとした硬い便が出るなら水分が足りていないため浸透圧性下剤、いきんでもなかなか出なければ腸の動きが鈍くなっているため刺激性下剤が適しています。定期的の下剤を使用するときは浸透圧性下剤を中心に使用し、それでも排便がない時に刺激性下剤を使用することが望ましいです。排便には個人差があるため2~3日排便がなくても腹痛やお腹が張るなどの症状がなければ下剤を使用しなくても大丈夫です。便秘が原因で食欲がなくなることもありますので必要に応じて上手に下剤を使用して解消していきたいですね。

＜文責：薬剤部 小金澤 内線 1142＞

編集後記

朝夕はだいぶ涼しくなってきましたが、体調の方はいかがでしょうか。さて、今回は薬剤師の先生に執筆をお願いしました。来月も薬剤について教えて頂くので楽しみにして頂ければと思います。 <<栄養管理室 I >>